

## 第9回青森県総合教育会議会議録

- 1 期 日 平成31年2月12日（火）
- 2 開 会 午前10時40分
- 3 閉 会 午前11時20分
- 4 場 所 第三応接室
- 5 議 事 (1) 教育施策の大綱の協議について  
(2) 国民スポーツ大会開催を見据えたスポーツ振興について

### 6 出席者等

- ・出席者の氏名

三村申吾（知事）

和嶋延寿（教育長）、豊川好司（教育委員）、町田直子（教育委員）、

中沢洋子（教育委員）、野澤正樹（教育委員）、杉澤廉晴（教育委員）

- ・説明のために出席した者の氏名

原田啓一（企画政策部長）、東 直樹（企画調整課長）、佐藤英紀（教育次長）、

田村博美（教育次長）、児玉政光（参事・教育政策課長）、

相坂 譲（スポーツ健康課長）

## 7 概 要

### 知事挨拶

総合教育会議では、これまで、「教育施策の大綱」の策定や教育を行うための諸条件の整備等教育の振興を図るため重点的に講ずべき施策について協議してきたところである。

本日は、新たな「教育施策の大綱」の策定について協議を行うとともに、「国民スポーツ大会開催を見据えたスポーツ振興」について確認し、今後の方向性について共通理解を図りたいと考えている。

先月、全国高等学校サッカー選手権において、本県代表の青森山田高等学校が優勝した。非常に喜ばしい限りである。

2025年に開催予定の国民スポーツ大会を見据え、県民に感動や活力をもたらすスポーツの一層の振興に向けて、教育委員の皆様と意見交換できればと思うので、よろしくお願ひしたい。

### 議事 教育施策の大綱の協議について

(児玉参事・教育政策課長)

資料1を御覧いただきたい。

教育振興基本計画の策定については、教育基本法第17条に基づき、国は教育の振興に関する施策についての基本的な計画を定め、地方公共団体は、国の計画を参酌し、地域の実情に応じ、計画を定めることとなっている。

青森県教育振興基本計画は、去る1月9日に教育委員会定例会において決定されたところであるが、2の「策定の考え方」として、昨年12月に策定された「青森県基本計画『選ばれる青森』への挑戦」と同一の方向性の下、県と密接な連携により取組を進めることが重要であることから、「県基本計画」の教育関連部分を「県教育振興基本計画」に位置付けたところである。

策定された青森県教育振興基本計画は、資料2のとおりとなっている。

(東企画調整課長)

資料3の1ページ、1の趣旨を御覧いただきたい。

法律に基づき、各地方公共団体の長には、教育、学術文化の振興に関する総合的な施策について、「教育施策の大綱」を策定することが求められている。

平成30年12月に策定した「青森県基本計画『選ばれる青森』への挑戦」では、「教育・人づくり分野」を本県が取り組むべき分野の一つとして、「2030年のめざす姿」やそれを実現するための政策・施策を示している。県教育委員会では、県と一体となった政策・施策を進めるため、「青森県基本計画『選ばれる青森』への挑戦」の教育関連部分を青森県教育振興基本計画としたところである。

前回の総合教育会議において、了承をいただいた方針のとおり、現大綱同様、本県では、県教育委員会が定めた「青森県教育振興基本計画」を知事が策定する「青森県教育施策の大綱」として位置付けることとし、連携して、総合的な施策を推進することとしたい。内容については、青森県教育振興基本計画と同じ内容である。

(知事)

新たに策定した「青森県基本計画『選ばれる青森』への挑戦」を基に、青森県教育振興基本計画が策定されており、それと同一の内容として青森県教育施策の大綱を策定するという進めたい。

自主自立の青森県づくりを進め、「生活創造社会」を実現していく上で基本となるのは人の財(たから)、すなわち「人財」であると考え、これまで、各種施策に取り組んできたところである。

今後とも、教育委員会と十分な連携の下、「あおもりの今と未来をつくる人づくり」に取り組むので、御協力をお願いしたい。

## 議事 国民スポーツ大会を見据えたスポーツ振興について

(相坂スポーツ健康課長)

「国民スポーツ大会開催を見据えたスポーツ振興」について御説明する。

資料4の1ページを御覧いただきたい。

「県民の健康・スポーツの現状」についてである。本県における健康課題の一つとして、子どもたちの肥満が挙げられる。左上の図は、「年齢別肥満傾向児の出現率」として、本県と全国の調査結果を比較したものである。左下の図は、「成人の週1日以上スポーツ実施率」である。右上の「総合型地域スポーツクラブの状況」については、県内40市町村中80%に当たる32市町村において、準備中も含めると40クラブが設置されている。右下の図は、「スポーツ指導者・地域人財の活用」についてである。県民の健康の維持・増進を図るためには、地域のスポーツ指導者の活用も重要であり、本県ゆかりのトップアスリート等で構成される「あおもリアスリートネットワーク」のメンバーによる運動指導や交流会を実施している。なお、あおもリアスリートネットワークの代表は齋藤春香氏である。齋藤氏は、先月で青森県を離れたが、引き続き代表を担っていただけるとのことである。

2ページを御覧いただきたい。

「県民の健康・スポーツに関するこれまでの取組状況」として、現在、県教育委員会で取り組んでいる重点事業である。まず、「スポーツでいきいき！生涯健康力アップ事業」では、女性サークルなどの地域の団体に、それぞれの抱える悩みに合った効果的な運動メニューを企画・提案する「カスタムメイド健康づくり講座」を実施している。上段左の写真は昨年度に実施した「ヨガ教室」の様相である。また、県民のスポーツと健康に対する意欲を高めるため、スポーツで健康になるイベントを開催している。上段右

の写真は昨年度、カーヴィーダンスでおなじみの榎木裕実氏による実演指導の様子である。下段の「子どもの健康づくり体制支援事業」では、児童生徒の運動量の増加、体力向上、生活習慣の見直しに取り組んでいる。

3ページを御覧いただきたい。

「新陸上競技場及び水泳場の整備」についてである。本県のスポーツ振興に向けた環境を整えるため、現在、新青森県総合運動公園内に陸上競技場を整備しており、今後は水泳場についても計画している。左側の「新陸上競技場」は、第1種公認陸上競技場として、国民スポーツ大会等の大規模な大会を開催できるとともに、サッカーJ3リーグやラグビーのトップリーグが開催可能な競技場として、本年9月の供用開始に向け準備を進めている。なお、主競技場は、2万人を超える観客席とともに、天候に左右されず通年利用可能な雨天用走路、周回走路が備わっている。右側の「新水泳場」は、日本水泳連盟公認の屋内の50メートルプールとして、国民スポーツ大会等の大規模な大会で競泳、水球及び以前はシンクロナイズドスイミングといわれていたアーティスティックスイミング競技が可能なプールとして、2024年の供用開始を目指している。なお、可動壁により2つに分けることで25メートル公認プールとしても使用可能である。さらに可動床により水深を変化させることで一般の利用にも広く対応できることとしている。

4ページを御覧いただきたい。

「第80回国民スポーツ大会に向けたスケジュールの概要」についてである。2019年度は中央競技団体による視察、2020年度は開催内定、開催3年前の2022年度は開催決定となり、開催前年には、リハーサル大会を行い、2025年は国民スポーツ大会が開催となる予定である。

5ページを御覧いただきたい。

「選手強化のスケジュール」についてである。青森県競技力向上対策本部において昨年1月に策定した「青森県競技力向上基本計画」では、その目標を第80回国民スポーツ大会における「天皇杯・皇后杯の獲得」と定めるとともに、大会終了後も持続可能な競技スポーツの振興を目指すため、本県の課題を「推進体制の確立」など4つの柱に分けて整理している。

6ページを御覧いただきたい。

ただいま御説明した、4つの柱に基づく主な事業内容についてである。一点目の柱は、「推進体制の確立」である。特に、中段に記載してある「体制の強化・充実」のため、「競技団体等の組織マネジメント力強化」に取り組むものである。具体的には、競技団体を対象とした「組織マネジメント講習会」を実施し、各競技団体のガバナンス強化に取り組むとともに、競技力向上対策本部の担当者が、競技団体等が実施する強化事業の現地調査や個別ヒアリングを行い、強化対策事業の進捗状況や課題を把握するものである。

7ページを御覧いただきたい。

二点目の柱は、「選手等の発掘・育成・強化」である。「競技人口の拡大」では、「ジュニア世代のスポーツ活動活性化」を目指し、運動・スポーツ好きな子どもを増やすため、小学校教職員を対象とした研修を実施するとともに、競技団体等が行うジュニア教

室の開催を支援している。「選手の発掘・育成・強化」では、「あおもりスポーツアカデミー」という名称で、将来有望なジュニア選手を県内から選抜し、中央競技団体などと連携しながら、スポーツ医・科学や各競技団体と連携した育成プログラムを実施している。将来、「あおもりスポーツアカデミー」を卒業した選手たちが、本県の代表選手として国民スポーツ大会やオリンピック等の世界の舞台上で活躍することが期待されるものである。

8ページを御覧いただきたい。

三点目の柱は、「指導体制の確立」である。「指導者等の養成・活用及び資質向上」として、国内外トップレベルの指導者の招聘や中央協議団体等が開催する各種研修会への参加促進により、県内指導者の資質向上を図るものである。また、「選手強化体制の充実」では、スポーツ医・科学サポートの推進として、選手を医・科学的側面からサポートするため、大会へのドクター及びトレーナーの帯同を促進するとともに、青森県スポーツ科学センターによるアスリート支援などを行っている。

9ページを御覧いただきたい。

四点目の柱は、「諸条件の整備」である。「支援体制の充実」では、選手・指導者の雇用環境充実として、トップレベルの成年選手や指導者の採用を受け入れる県内企業や事業所の開拓を行い、県内外から本県へ優秀な人材の獲得に努めることとしている。

10ページを御覧いただきたい。

「国民スポーツ大会を見据えた競技力向上」について、競技力向上基本計画においては、2017年から2025年までを育成期、充実期、躍進期に区分し、それぞれ目標とする順位を設定しており、第80回国民スポーツ大会において、天皇杯、皇后杯ともに獲得できるように、各種取組を進めることとしている。

(豊川委員)

国民スポーツ大会の開催に向け、選手の育成と強化、指導者の養成に取り組むとのことであるが、指導体制の確立に向けて、しっかりと取り組んでいかなければならない。

選手は試合で負けることや練習成果を発揮できない場合もある。次の試合に備えて新たな戦術や更に向上できる方法を選手と共に考えることが指導者の務めであると考えられる。選手の強化を図る場合は、指導者には勝利することだけではなく、スポーツを教え育てることができる資質の向上を図る取組にも気を配っていただきたい。

また、スポーツは、話し合いによって育成者を選び、一切の暴力を否定した平和なメッセージを含む、人類が生んだ偉大な文化であると思う。そのスポーツを教育科目に取り入れた「体育」においても、指導体制をしっかりとお願いしたい。

本大会がクリーンでフェアな大会となるために、誠のスポーツを推し進める大きな機会であると考えている。

(知事)

「スポーツは、平和なメッセージを含む、偉大な文化である」との豊川委員の思いと同感である。指導者の資質向上は非常に重要なことであり、それに基づく各競技団体のマネジメント力の向上も必要であると思う。選手は勝つことも重要であるが、フェアで

力を全部発揮できる美しさも重要であると考えている。いただいた御意見について、各種施策・政策に計画的に取り入れていきたいと思う。

(町田委員)

本県で開催予定の国民スポーツ大会は、48年ぶりということで、県民にとって大変貴重な機会であり、喜ばしいことである。

子どもたちにとって、間近で一流の選手の試合を観戦できることは、大変貴重な機会であり、子どもたちのモチベーションの向上につながるものと考えている。試合を観戦し、頑張ることの意義、感動する気持ち、応援してくれる方々への感謝の気持ちを感じることができることは、かけがえのない財産になると感じる。できるだけ多くの子どもたちに一流の試合を観戦できる機会を増やしてほしいと思っている。

一方で肥満傾向児の出現率が高いことや短命県であることなど、健康面で課題があり、何らかの対応が必要であると思っている。先日、新陸上競技場を視察させていただいた。プロスポーツの開催が可能な競技場であり、冬期間も利用できるよう工夫されており、自分自身も利用したいと思った競技場であった。競技場で輝ける選手が育ってほしいと願うとともに、スポーツをするきっかけにもなってほしい。このような立派な施設が整備され、多くの大会で一流の選手を見ることができるようにより、大会終了後も多くの県民がモチベーションを高めながら施設を活用することで、本県の健康面の課題解決につながればよいと期待している。

(知事)

スポーツにより、頑張ること、感動、感謝を知るということは非常に重要なことであるとの御意見について、我々も同じ気持ちであり、スポーツ振興を図っていきたい。

新陸上競技場視察の際に青色のレーンを見学した。私も陸上競技経験者であり、60歳以上の部で記録が出せるのではないかと感じた。そのようなことで色々なスポーツのきっかけになってほしいと思う。

国民スポーツ大会もそうであるが、一流選手の様々なパフォーマンスを見ることができるということは、子どもたちにとって、頑張ることや感動・感謝にもつながり、素晴らしいことだと思う。

また、先般も発表されたが、肥満傾向児出現率について青森県は全国平均を超えていたことから、国民スポーツ大会の開催が体を動かすということにつながるよう、子どもたちの健康の観点も含めて、しっかりPRしていきたい。

(中沢委員)

本県で策定しているスポーツ推進計画に基づき、スポーツを振興していくことが大事であると考えている。2020年には東京オリンピック、2025年には本県において国民スポーツ大会の開催が予定されており、県民のスポーツへの意識が高まるものと考えている。本県で開催される国民スポーツ大会が大きなスポーツ大会を開催したということで終わるのではなく、スポーツへの意識の高まりが一過性のものとならず、大会終了後も県民の生活に密着した形で運動習慣が根ざし、健康やスポーツへの意識の高まりが継続する

ように取り組むことが大切であり、そのことが本県の健康寿命の延伸につながるものと考えている。

私が住んでいる十和田市でも、朝早くからウォーキングやジョギングなどを行っている人が多く見られ、徐々に運動習慣が定着しているように感じているので、スポーツへの機運が上昇するこの機会に運動習慣が日常的に県民に定着し、短命県返上につながればよいと思っている。

(知事)

健康ということが、本県の平均寿命に絡んでくる。運動習慣をいかにして身に付けさせるかは、長年のテーマであり、ずっと取り組んできた。今回の国民スポーツ大会の開催を契機に、それぞれが気付き、運動習慣につながっていく。教育委員会のみならず、県としても運動は大事なテーマとして進めているので、国民スポーツ大会を契機にさらに根付くようにしていきたい。

(野澤委員)

自分自身のことであるが、大学時代にボート部に所属し、キャプテンも務めた。経験者はいなかったが、全日本大学選手権で優勝できるよう、6～7年の強化計画に取り組んだところ、自分が卒業後ではあるが選手権で2連覇することができた。その経験に基づき意見を述べさせていただきたい。

本県で開催予定の第80回国民スポーツ大会において、天皇杯獲得をめざし、選手の育成・強化を図る上で一流のプレイを見ることは大切である。そのような機会が2年後にある東京オリンピックである。オリンピックの本番のみならず、事前合宿や練習風景でもよいと考える。また、JOCエリートアカデミーを見学することも効果的であるものと考えている。

金銭面などの問題もあると思うが、みんなで知恵を絞り、選手・指導者及び大会関係者が一丸となり競技力向上に取り組んでいただき、天皇杯獲得に向け頑張ってもらいたい。

(知事)

目標を設定し、計画的に取り組むことで成果を出した実事例を伺うことができうれしく思う。

本物を見ることは刺激的であり、そこで学び、教わることで競技力が向上していくものだと感じている。可能な限り、様々な工夫をして、一流どころの在り方を見ていくことに努めていきたいと感じたところである。

ジャンルは別であるが、「良医を育むグランドデザイン」を策定する際に、教育委員会では医学部への合格者数の増加に向けて、「受験の勉強」と「学校の勉強」では違いがあるため、一流予備校の講師を招き、生徒も教員も受講し、勉強の仕方を学ぶとのことであった。疑っていたが、結果として合格者数は倍増となった。どの分野においても、一流から学ぶことはすごいことであると驚いた。そのような結果を残すことができた教育委員会である。スポーツの分野においても、創意工夫をし、予算の中でできるだけや

っていただきたい。やればできるということを示していただきたい。

(杉澤委員)

スポーツが盛んな青森県を目指すためには、子どもの頃から多くの競技に触れる機会があれば望ましいと考えている。

現状として、子どもたちのスポーツ活動は、学校の部活動が中心であるものと思われる。しかし、学校の部活動だけでは、競技の数が限られており、部活動にない競技の実践は困難な状況である。様々な競技を体験するためには地域の支援が必要であると考えられる。少子化の影響により、学校の部活動もチームを編成できないなどの課題がある中、保護者や支援者が連携・協力し、子どもたちのスポーツ活動のサポートに一生懸命に取り組んでいる地域もあり、そのような体制が広がっていけばよいと思う。自分が住んでいる鱒ヶ沢町においても、まだまだ少ないがサッカーなど、様々な努力している姿勢を見て、何か支援できないものかと考えている。

子どもたちが挑戦したい競技に触れることができる環境を整備することで、無限大な可能性が期待できると思うので、国民スポーツ大会を契機に本県の競技環境の充実を図ればよいと考える。地域で努力している各組織を支援する機会を増やし、いろいろなことに挑戦できる青森県となればうれしい。

(知事)

この前も学校で授業をさせていただいたが、子どもが減っている中で、色々なジャンル、例えば野球とサッカーとバレーボールの3つ同時にはできないため、どれに焦点を合わせるかなどの問題がある。本日の朝刊でも百石高校の少人数のバレーボール部の記事が掲載されていた。各市町村とも同じような状況である中で、どのようにサポートするか、総合型地域スポーツクラブをどのように整えていくかが課題であると考えられる。スケート競技は、早い段階から総合型地域スポーツクラブになってきている。サッカーもクラブチームなどになってきている。市町村においても新しい形でのサポートを考えていただくことや、市町村の枠を超えることも必要となってくると思う。学校単位でスポーツ活動を行ってきたが、地域全体で部活動を応援するなど、創意工夫が大事な時代になったと思っている。しっかりといただいた御意見をいかしていきたい。国民スポーツ大会が、いろんな意味で契機になってくると思っている。

(教育長)

スポーツの振興や県民の健康づくりについては、日頃より知事からお力添えをいただいております、感謝申し上げます。

また、先般の青森山田高等学校が優勝した全国高等学校サッカー選手権の決勝において、知事自ら埼玉スタジアムまで足を運んで、激励していただき、選手も励みになった。

県教育委員会では、2025年の国民スポーツ大会の開催に向けて、準備とともに、競技力の向上に向けた基本計画の策定や各種事業等に取り組んできたところである。今後とも、御説明したような各種事業に取り組み、大会における順位を上げ、全国の中でトップクラスの選手を輩出する競技が増加し、県民に感動と希望をもたらすスポーツの



振興に取り組んでいきたいと考えている。県教育委員会としては、青森県基本計画にある「スポーツが盛んな青森県」を目指し、今後とも知事部局と連携の下、更なるスポーツの振興及び県民の健康づくりがなされるよう、取り組んでいきたい。

(知事)

本日のテーマである「国民スポーツ大会開催を見据えたスポーツ振興」に関する説明や教育委員会の意見を聴き、その現状や方向性について、お互い理解を深めることができた。

国民スポーツ大会の開催に向けては、競技力の向上も重要であるが、大会の準備段階からスポーツに親しんでいただき、健康づくりや短命県を返上することも大切である。青森県民は自分自身でよくしようとする意識の高さがある。国民スポーツ大会が契機となり、運動意識の高揚、健康づくり、地域の活性化などにつながるものとする。

第80回国民スポーツ大会は、デモンストレーションスポーツを含め、県内全ての市町村において何らかの競技を実施することとしている。全県一丸となって、国民スポーツ大会を盛り上げ、スポーツの力で本県の活力を生み出すことができるよう、県教育委員会とともに取り組んでいきたいと改めて決意した。